

帰ってきた夏の風物詩

4年ぶりに2日間の「あつぎ鮎まつり」を開催



フィナーレを飾った「大ナイアガラ」

家族で訪れた碓井菜月さん(30・飯山)は「鮎まつりには毎年来ています。夏の開催はとても暑いですが、浴衣を着ている人を見ると夏を感じられるのがいい」と笑顔で話しました。

市内最大のイベント「あつぎ鮎まつり」を8月5・6日の2日間にわたり開催しました。各会場では、名物のアユの塩焼きなどの屋台が並び、パレードやダンスパフォーマンスなどが披露され、延べおよそ28万人の来場者でにぎわいました。初日の夜には大花火大会を開催。約1万発の花火が厚木の夜空を彩り、終盤に約300発に及ぶ仕掛け花火「大ナイアガラ」が披露されると、会場からは大きな歓声が上がりました。

命を守るヘルメットの着用を

市内の高校生を「ヘルメットインフルエンサー」に任命

通学で自転車の利用が多い高校生にヘルメット着用を促すため、厚木西高校の生徒30人を「ヘルメットインフルエンサー」に任命しました。生徒たちは、通学時などにヘルメットを着用し、他の生徒や市民に必要性を発信します。

任命式では、山口市長がヘルメットを贈呈した後、生徒一人一人に任命書を手渡しました。任命された酒井慧さん(2年生)は「私たちがヘルメットを着用するなど交通マナーを守り、交通安全の輪を広げたい」と話しました。

道路交通法改正により4月からヘルメットの着用が努力義務化。市では、購入費の助成を増額するなど着用率の向上に取り組んでいます。



任命式後に厚木警察署員から自転車の交通ルールを学んだ



消防の技術を競う

4年ぶりに消防団消防操法大会を開催

最優秀賞を受賞した第2分団チーム(依知地区)指揮者の佐藤洋輝さん(36・関口)は「賞が発表された時は感動した。受賞できたのは皆さんの応援と励ましのおかげ」と喜びました。最優秀賞チームは、来年1月の消防出初め式でも演技を披露します。



正確に的を狙う消防団員たち

消防本部は7月、消防基本技術と士気の向上のため、資器材の操作技術を競う消防団消防操法大会を開催しました。地域の防災活動を担う消防団8チームが参加。市民や消防団の仲間が見守る中、4人1組でチームを組み、日頃の訓練の成果を披露しました。選手たちは、素早く正確な操作でポンプにホースを結合し、号令を掛け合いながら放水開始。勢いよく放たれた水で火元に見立てた的が倒れると、会場からは拍手が湧き起こりました。

消防本部は7月、消防基本技術と士気の向上のため、資器材の操作技術を競う消防団消防操法大会を開催しました。地域の防災活動を担う消防団8チームが参加。市民や消防団の仲間が見守る中、4人1組でチームを組み、日頃の訓練の成果を披露しました。選手たちは、素早く正確な操作でポンプにホースを結合し、号令を掛け合いながら放水開始。勢いよく放たれた水で火元に見立てた的が倒れると、会場からは拍手が湧き起こりました。

地域の力で犯罪に強いまちに

安心・安全セーフコミュニティ推進地区に16地区を指定

地域の防犯活動の強化・促進のため、「安心・安全セーフコミュニティ推進地区」の指定式を開催しました。各地区の代表者に山口市長から指定書、有原警厚木警察署長から安心・安全と書かれたプレートを手渡ししました。指定地区では、防犯パトロールや子どもの見守りなどに取り組みます。

推進地区代表の片岡俊治さんは「犯罪の防止や交通安全、けがの予防などセーフコミュニティの取り組みを充実させ、身近な安心・安全活動を積極的に展開する」と力強く決意表明しました。

セーフコミュニティ(SC)は、事故やけがは予防できるという理念の下、安心・安全に暮らせるまちをみんなで作る取り組みです。市は2010年に世界保健機関が推奨するSCの国際認証を取得し、21年には3度目の認証を受けています。



片岡さん(中央)から決意表明書を受け取った山口市長と有原署長

第6回 みんなで目指そう カーボンニュートラル

カーボンニュートラル(CN)とは、地球温暖化の原因である温室効果ガスの排出を減らし、植林や森林管理などによる吸収量を増やすことで、実質ゼロを目指す取り組みです。連載では、今日から挑戦できる取り組みを紹介します。

今月の挑戦 エコ窓にしよう



内窓設置で省エネに

窓は家の中で熱の出入りが最も多く、冷暖房の効果に大きく影響します。冷暖房は家庭のエネルギー消費の約3割。今ある窓の内側に窓を取り付ける「内窓」などのエコ窓にすることで省エネ効果が期待できます。補助金や減税制度(要件あり)を利用して、環境と家計にやさしいエコ窓にしてみませんか。

CNプラットフォームでは、家の断熱性能や補助金などを紹介しています

環境政策課 ☎225-2749



(左から) 梅澤さん・中村幹夫実行委員長と花火打上げのカウントダウン

皆さん、4年ぶりにフルスペックで開催したあつぎ鮎まつり、楽しんでいただけましたか。28万人の方にお越しいただき、大きな事故もなく終えられたことに安堵しています。私も花火のカウントダウンや厚木のみこし、民踊おどりなどに参加して多くの笑顔に出会い、祭りの熱気を間近に感じる事ができました。

子どもの頃から親しんできた祭りですが、初めて主催者として携わり改めて感じたことがあります。それ

今年は、市内出身のアナウンサー・梅澤廉さんも花火大会に登場し、花を添えてくださいました。幼い頃から家族と花火を見に来ていたという梅澤さんの司会で、会場は例年にも増して盛り上がりを見せていました。

鮎まつりは、多くの皆さんにとってなじみの深いイベントだと思えます。この祭りや市内で開かれるイベントをより誇れるものとして後世に伝えないでいけるよう進化させ、まちの活性化につなげてまいります。

は、この祭りがたくさんの人に愛され、支えられているということ。市内外から来てくださるお客さん、出演者の皆さん、花火師さん、警察関係者、運営スタッフなど、多くの人の関わりがあってこそこのイベントだと実感した二日間でした。